

あなたが住んでいるところは

安全ですか？

六月は「土砂災害防止月間」

梅雨は間近

土砂災害を生む大雨

植木鉢とか庭に土を盛り上げ、そこに水を注いでみましょう。はじめは、水がみるみるうちにしみ込んでいきます。しかし、水を含みきれなくなると、土は崩れ始めます。土砂災害はこうして起こるのです。

土砂災害なんて無縁のもの、被害に遭った人のほとんどがそう思っていたはずですが、ところが、雨がしばらく続いたある日、突然に――。

地面が崩れるとはふだんだけも思っていない。しかし、台風や梅雨などで雨が一時に多量に降ると、いつもは水の少ない山から土砂が流れだしたり、ふだんは丈夫そうに見えるがけが、崩れ始めます。雨で地盤がゆるむためです。

地すべり

山などの斜面の一部がすべり

落ちる――これが「地すべり」です。「がけ崩れ」に似ていますが、地すべりは、元の形をある程度保ちながらゆっくりと、しかも継続的に崩れるものであるとされています。

地すべりを引き起こすものとしては、雨水のほか、雪どけ水、地震などが挙げられます。また、斜面の端から土砂を取り除いたり、斜面の上部に盛り土をするなど、手を加えることも地すべりの引き金となります。

がけ崩れ

「がけ崩れ」は、勾配が三十分度以上の斜面に多く発生しています。割れ目が多かったり、水が流れていたり、上部がせり出しているようながけは、崩れやすいがけといえます。

がけ崩れは、地すべりと同じで、雨ばかりでなく地震でも起きます。しかし、ふだんから次のようなことに注意していれば、予防できます。

- ・ 雨水などをがけに流さないようにする
- ・ がけの周囲の水路を掃除し、水をためない
- ・ 風に揺られて、その根が地盤をゆるめるような大木は切り取る
- ・ 崩れそうな土のかたまりはあらかじめ取り除く
- ・ 崩れそうな箇所は柵などで補強する
- ・ ビニールなどで覆い、水ががけにしみ込まないようにする

知って得する

雨に関する

ミニ知識

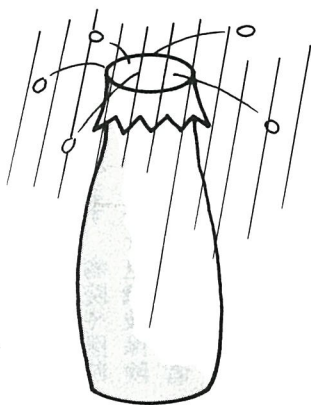
いよいよ雨のシーズン。天気予報でも、雨の情報がひんばんに出されるようになる。そこで、天気予報を活用するための雨のミニ知識を紹介します。

所かわれば量かわる

銚子气象台

注意報	1時間雨量が 20mm以上	と予想されるとき
	3時間 " 40mm以上	
	24時間 " 80mm以上	
警報	1時間雨量が 40mm以上	と予想されるとき
	3時間 " 80mm以上	
	24時間 " 150mm以上	

入梅には、大雨警報や注意報が、たびたび出されますが、基準は地域によって、かなり差があります。自分の住んでいる地域の气象台の基準を知っておくと便利ではないでしょうか。



おおまかな目安として、牛乳ビンに水が半分たまったなら100mmの雨量になります。あふれるようになったら洪水の危険があります。

<雨の強さと降り方>

雨の強さ (1時間あたり)	雨の降り方
1mm未満	地面がかすかに湿る程度
1~3mm "	地面がしっとりと湿る
3~15mm "	地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる
15~20mm "	地面一面に水たまりができ、雨音で話が聞きとれない
20~30mm "	下水がたちまちあふれ、小川がはんらんする
30mm以上	バケツをひっくり返したような雨、視界もきかない

水の事故に気をつけよう

水がぬるみはじめる六月から八月にかけて、毎年水の事故が多く発生しています。次のことに気をつけましょう。

- 幼児の事故は保護者がちよっと目をなしたすきに起きています。幼児からは絶対目をなさないようにしましょう。